

4D v15 R2 アップグレードマニュアル

Welcome to 4D v15 R2, the first R-release version of the 4D v15 product range cycle. This manual describes all the new features and implementations that you will find in this release.

-  ライセンス
-  デザインモード
-  ランゲージ
-  Web サーバー
-  4D Write Pro
-  4D Server
-  Optimizations
-  4Dデベロッパーエディション 64-bit版(プレビュー)

ライセンス

-  Rリリースのライセンスについて
-  4Dプロダクトライセンスの管理
-  アプリケーションビルドのライセンスページ

Rリリースのライセンスについて

[4D R-リリースバージョン](#) は開発と配布専用のライセンスが必要となりました("R"ライセンスプロダクト番号は"R-4DDP"から始まる番号です)。

R-リリース版の4D Serverアプリケーションをコンピューター上で最初に立ち上げると、新しい**自動アクティベーション機能**がトリガーされ、ライセンスを更新しようとします。この新しいプロセスは完全に自動で行われ、ユーザーアクションを何も必要としません。

有効な4D メンテナンス契約を交わしているライセンスであればR-リリースをダウンロードして無償で使用する事ができます。それに加え、[4D Partners](#) もデベロッパーライセンスとテストサーバーに対しR-リリースへと無償で入手する事ができます。

4Dプロダクトライセンスの管理

4D プロダクトライセンスの管理が4D v15 R2において改善されました。以下のような点が改善されています:

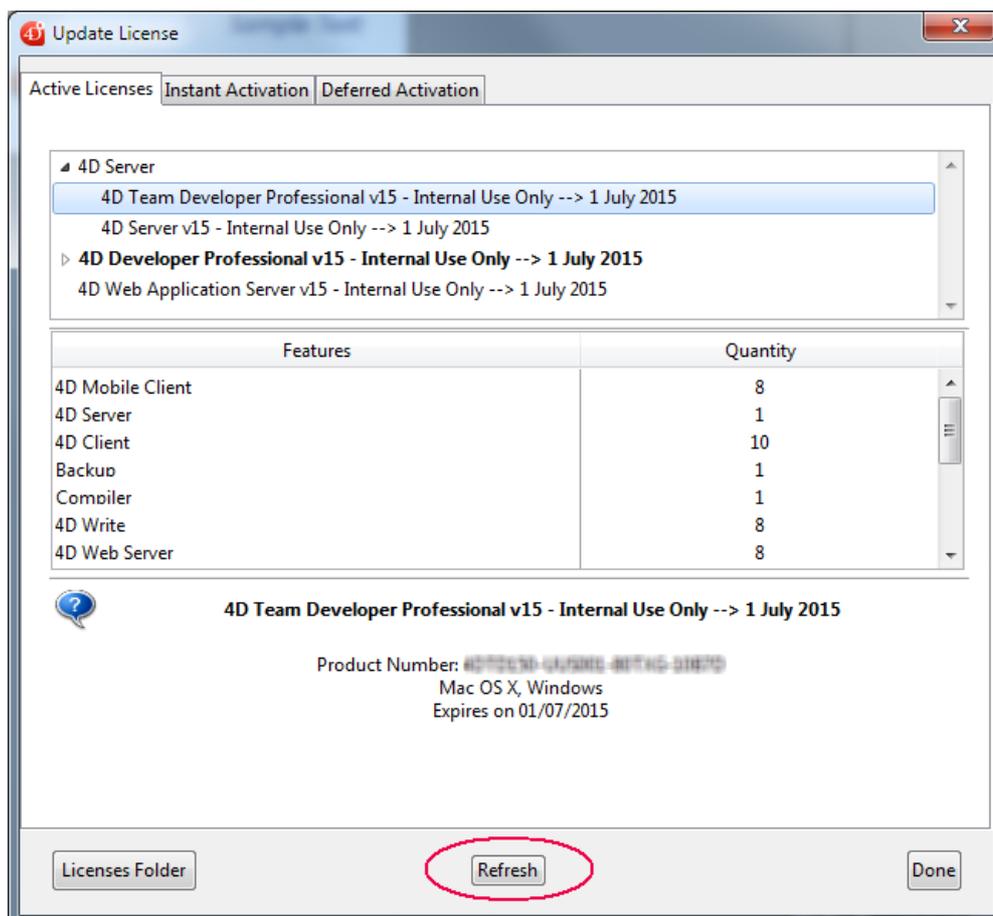
- 最初のアクティベーションの簡略化
- 新しい**更新**ボタン
- 新しい自動アクティベート機能

最初のアクティベーション

"ライセンスを更新"ダイアログボックスに入力すると、単一のオペレーションで、4D Server とそれに関連するエクspansion(追加のクライアント、プラグイン、等)を自動的にアクティベートします。

新しい更新ボタン

"ライセンスを更新"ダイアログボックス内の**更新**ボタンをクリックするだけで、ライセンスをアクティベートすることができるようになりました:



このボタンをクリックすると、4Dのカスタマーデータベース(4D Store)に接続し、カレントのライセンスに関連している新しい、あるいは更新されているライセンスを全て自動的にアクティベートします(カレントのライセンスは"有効なライセンス"の一覧に太字で表示されています)。その際、ユーザーアカウントとパスワードの入力を求められます。以下の様な時にこの**更新**ボタンをクリックして下さい:

- 追加のエクspansionを購入し、それをインストールしたい場合。
- 失効した一時的な番号(パートナーまたはエヴォリューション)をアップデートしたい場合。

自動アクティベーション機能

新しいライセンス機構には、自動アクティベーション機能も含まれています。この機能は、まだライセンスを入力していない新しい4D製品を起動した場合、または製品を起動したマシンで発見されたライセンスが有効でない場合に起動します。以下の時点でこの自動アクティベーションのプロシージャが開始されます：

- ローカルのインタープリタデータベースを4D デベロッパーエディションで開いた、あるいは作成した場合に開始されます。この場合、こちらのカスタマーデータベースに接続し、ライセンスがアクティベートされることを知らせるダイアログが表示されます(ご自分のユーザーアカウントのパスワードを入力する必要があります)。
- 4D Server アプリケーションを開いた場合に開始されます。この場合、サービスとしての使用、あるいは自動アップデートを許可する為に、自動アクティベーションプロセスはユーザーからは完全に見えないように行われ、全てが自動的に行われます(ダイアログボックスは表示されません)。

アプリケーションビルドのライセンスページ

アプリケーションビルドダイアログボックスの"ライセンス&証明書"ページが更新されました:

License #	License	Expiration date	Path
4UUD1	4D Unlimited Desktop ...		C:\ProgramData\4D\Licenses\R-4UUD1.license4D
4DDP1	4D Developer Professio...	01/12/2015	C:\ProgramData\4D\Licenses\4DDP1.license4D

ページ内には、以下のようなカラムが表示されるようになりました:

- **ライセンス #:** プロダクト ID
- **ライセンス:** パッケージ名
- **有効期限:** ライセンスの有効期限(あれば)
- **パス:** ディスク上での場所

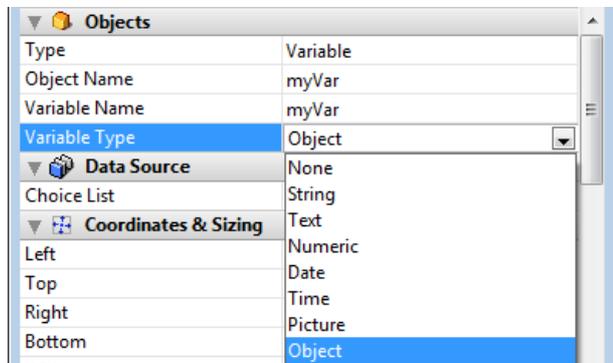
"R-リリース"バージョンを使用してアプリケーションをビルドする場合、専用の"R"ライセンスが必要になるという点に注意して下さい([Rリリースのライセンスについて](#) を参照して下さい)。

デザインモード

-  フォームエディター内でのオブジェクト変数型
-  フォームウィザードの改善

フォームエディター内でのオブジェクト変数型

プロパティリストの"オブジェクト"テーマ内においてフォーム変数の**変数タイプ**プロパティにて**オブジェクト**型を選択できるようになりました:

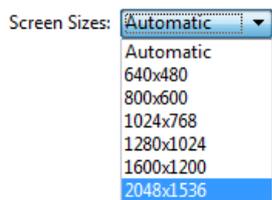


この新しいオプションにより、フォーム内にてオブジェクト型の動的変数を宣言できるようになりました。

📄 フォームウィザードの改善

ハードウェア、4D プロダクトレンジの双方の進化を反映するために、フォームウィザードのオプションの内容が改善されました:

- **スクリーンサイズ**の一覧には、新しい"2048x1536" の解像度が含まれるようになりました:



- **グラフ**ボタンのアクションは使用できなくなりました。
- 生成されたフォームに置いては、ナビゲーションボタンの**変数名**のプロパティは空欄となっています。

ランゲージ

 WEB GET OPTION, WEB SET OPTION

WEB GET OPTION, WEB SET OPTION

WEB GET OPTION(selector ; value)

WEB SET OPTION(selector ; value)

説明

4D v15 R2 では、*selector* 引数に対し新しい定数が使用できるようになりました:

定数	定数	値
Web HTTP TRACE	倍長整数	85

- **スコープ**: ローカルWeb サーバー
- **異なるセッション間で値を保持**: No
- **詳細**: 4D Web サーバーにおいてHTTP TRACE メソッドを無効化あるいは有効化が選択できます。セキュリティ上の理由から、4D v15 R2 以降、4D Web サーバーはHTTP TRACEリクエストをエラー405として拒絶するようになりました (**HTTP TRACE の無効化** を参照して下さい)。必要に応じて、この定数に値1を渡す事によりHTTP TRACEメソッドを有効化する事ができます。これが許可されている場合、4D Web サーバーはHTTP TRACE リクエストに対しリクエストライン、ヘッダー、そしてボディを返信します。
- **使用可能な値**: 0 (無効化) または 1 (有効化)
- **デフォルトの値**: 0 (無効化)

Web サーバー

 HTTP TRACE の無効化

HTTP TRACE の無効化

セキュリティ強化のため、4D v15 R2以降、HTTP TRACEメソッドは4D Webサーバーにおいてデフォルトで無効化となりました。HTTP TRACEリクエストを受信した場合には、4D Web サーバーは405エラー("メソッドが許可されていません")を返すようになりました。

必要であれば、新しいWeb HTTP TRACE オプションを使用してHTTP TRACE メソッドを有効化できます(**WEB GET OPTION, WEB SET OPTION** を参照して下さい)。

4D Write Pro

 新しい4D Write Pro ドキュメントフォーマット

新しい4D Write Pro ドキュメントフォーマット

詳細

4D v15 R2以降、新しいネイティブなフォーマット**.4wp** を使う事によって、4D Write Proドキュメントを情報の欠損無くディスク上に保存、またはディスク上で開くことができるようになりました。

.4wp フォーマットはそのドキュメント名が名前になっているzipフォルダーと、その中に入っているHTMLテキストおよび画像から構成されます:

- HTMLテキストには通常のHTMLと4D式(評価はされていません)に加え、4D特有のタグが含まれます。
- 画像はHTMLファイルの隣にある、ドキュメント名と同じ名前を持つフォルダ内に保存されています。

.4wp ドキュメントはHTMLに基づいているので、HTMLをサポートするものであればどんな外部アプリケーションで読み込みたり開いたりすることができます。

注: 4D Write Proの内部ドキュメントはHTML専用の拡張子であり、これはXHTML 1.1 または HTML 4.0に準拠していますが、HTML/CSS属性とタグをサポートするものに限ります。結果として、4D Write Proでエラーなく確実に開けるのは、4D Write Proで書き出されたHTMLドキュメントに限られます。

4wp ドキュメントを開く

WP New と **WP Import document** コマンドは.4wpドキュメントをサポートするためにアップデートされました:

WP New ({source}) -> 戻り値

引数	型	詳細
source	文字列 BLOB	-> 文字列: 4D HTML ソース BLOB: 4D Write Blob ドキュメント (.4w7/.4wt) または 4D Write Pro ドキュメント (.4wp)
戻り値	Object	<- 4D Write Pro オブジェクト

WP Import document (filePath) -> 戻り値

引数	型	詳細
filePath	文字列	-> 4D Write ドキュメント(.4w7 または .4wt) もしくは 4D Write Pro ドキュメント document (.4wp)へのパス
戻り値	オブジェクト	<- 4D Write Pro オブジェクト

4wp ドキュメントの保存

WP EXPORT VARIABLE and **WP EXPORT DOCUMENT** コマンドは.4wpドキュメントを作成するため、*format* 引数に対して新しい値を受け入れるようになりました。それに加え、**WP EXPORT VARIABLE** は新しいフォーマットが使用されている際にはBLOBを返すようになりました。

WP EXPORT DOCUMENT (wpDoc ; filePath {; *format* {; option}})

引数	型	詳細
wpDoc	オブジェクト	-> 4D Write Pro 変数
filePath	文字列	-> 書き出されたファイルへのパス
<i>format</i>	倍長整数	-> ドキュメント出力フォーマット
option	倍長整数	-> 書き出しオプション

WP EXPORT VARIABLE (wpDoc ; *destination* ; *format* {; option})

Parameter	Type	Description
wpDoc	Object	-> 4D Write Pro variable
<i>destination</i>	Text variable BLOB variable	<- Variable to receive exported contents
<i>format</i>	Longint	-> Variable output format
option	Longint, String	-> Export options

format 引数に、"4D Write Pro"テーマ内の新しい定数を渡す事ができるようになりました:

定数	型	値	補足
wk 4wp	倍 長 整 数	4	4D Write Pro ドキュメントはネイティブアーカイブなフォーマットで保存されます(HTMLはZIPフォルダにまとめられ、画像は別のフォルダに保存されています)。4D特有のタグと4D式は計算はされません。4D Write Pro ドキュメントをディスク上に欠損無く保存、またはアーカイブするには最適です。

この定数を**WP EXPORT DOCUMENT** コマンドに渡した場合、ドキュメントは*destination* 変数内にBLOBとして返されま
す。

4D Server

 OS X用64ビット版4D Server(最終版)

OS X用64ビット版4D Server(最終版)

4D v15 R2以降、4DではOS X用64ビット版4D Serverの**最終版**が製品としてご利用いただけます。この新製品によって、お使いの4D ServerアプリケーションはAppleの64-bitマシンの実力の恩恵を十分に享受できるようになります。

OS X用64ビット版4D Serverの詳細な機能の説明については、4D Serverリファレンスマニュアルの**OS X用64ビット版4D Serverの使用について**の章を参照して下さい。

Optimizations

 OS X El CapitanとWindows 10での動作について

📄 OS X El CapitanとWindows 10での動作について

4D v15 R2以降、4Dアプリケーションは、AppleおよびMicrosoftによってリリースされた以下の最新バージョンのOSにおいて**検証済み(certified)**扱いとなります:

- OS X El Capitan (OS X 10.11)



- Microsoft Windows 10



検証済み、あるいは互換性のあるOSの完全な一覧を見るためには、4D Webサイトの互換性のセクションにある[Resources page](#)を参照して下さい。

4Dデベロッパーエディション 64-bit版(プレビュー)

4D v15 R2 リリースから、4Dは**OS X用4D デベロッパー 64-bit版**と**Windows用4D デベロッパー 64-bit版**の最初のプレビュー版を提供します。64-bit版の**4D Volume Desktop**もOS XとWindowsにおいてプレビューとして使用可能です。最終版において使用可能になった際には、これらの新しい製品はご自分の4Dスタンドアロンアプリケーションに加えて4Dリモートアプリケーションが64-bitオペレーションシステムの利点を全て引き出せるようにします。

これらのバージョンは64-bit製品の将来の姿を表すものと言えます。これらはまた、サードパーティーのプラグインデベロッパーにとっても有用です。独自のコードを採用し、それらのフィードバックを直ちに得る事ができるからです。しかしながら、これらの製品はまだ開発段階にあり、プレビュー版はときに不安定になり得るという点に注意して下さい。

これらの新バージョンには、新しい**クイックレポート**と**ラベルエディター**もプレビューモードとして提供されます(**新しいクイックレポートエディター(プレビュー版)**と**新しいラベルウィザード(プレビュー版)**を参照して下さい)。

- 概要と機能の現状
- 新しいクイックレポートエディター(プレビュー版)
- 新しいラベルウィザード(プレビュー版)

この章ではWindowsおよびOS X用の64-bit版4D Developer Editionの実装と使用に関する情報をまとめています。このバージョンは継続的なステップバイステップ方式で開発されており、この章ではこのプレビュー版ではまだご利用いただけない機能の現状についてもふれています。

システム要項

64-bit版4D Developerを動かすには、以下のスペックが必要です:

	Windows	OS X
OS	Windows 7 またはそれ以上(64-bit版)	OS X 10.9 (Mavericks) またはそれ以上
RAM	8 GB	8 GB

お使いのバージョンの4DがどのOSと対応しているのかを探すためには、[4D Web サイトにある対応早見表](#)を参照して下さい。

アーキテクチャー

64-bitアーキテクチャを想定した4Dアプリケーションは、この環境専用の特定のバージョンとなります。言い換えるとそれらは32-bit版OSでは実行する事ができません。

インタープリタモードでは、64-bit版・32-bit版のどちらのアプリケーションでも同じ4Dデータベースを開く事ができます(サーバー・ローカルを問いません)。どちらのアプリケーションを使おうと、開発の段階では一切違いはありません(ただし以下の制限を除く)。

コンパイルモードでは、データベースは適切なプロセッサ向きにコンパイルされている必要があります。つまり、64-bit版アプリケーションで開くためには64-bitの、32-bit版アプリケーションで開くためには32-bitのプロセッサでコンパイルしなければなりません。32-bitでコンパイルされた、インタープリタコードを含んでいないデータベースは64-bitの4Dアプリケーションで開く事はできず、その逆もまたしかりです。データベースはどちらか特定のアーキテクチャーだけにコンパイルする事もできますし、両方にコンパイルする事もできます。コンパイルについての詳細は、次の章を参照して下さい。

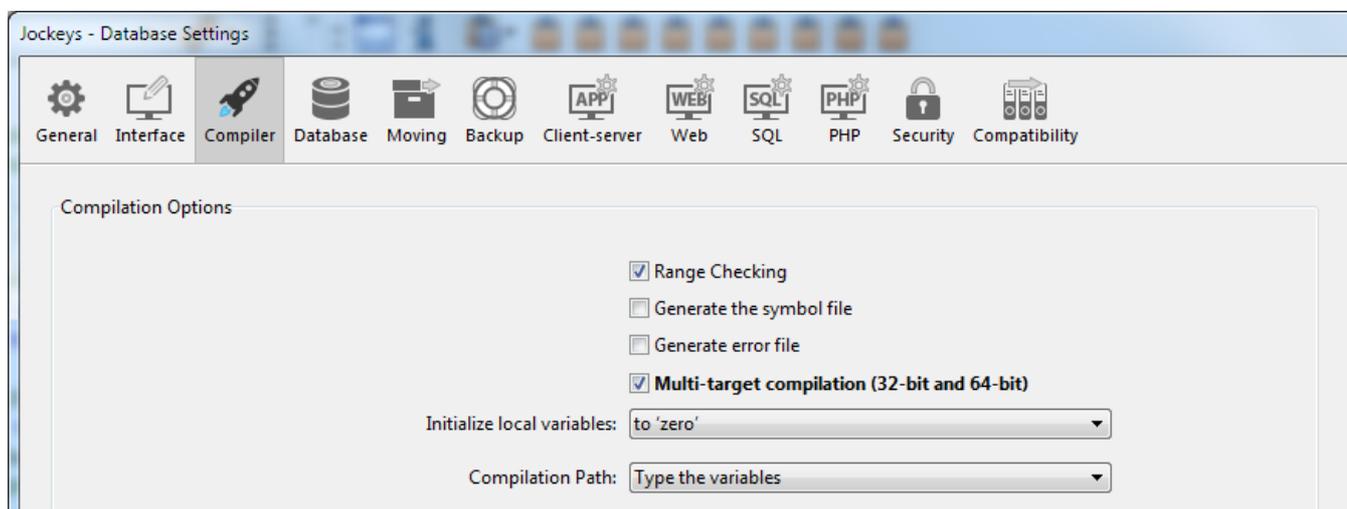
以下の一覧は様々な4D実行環境と、そのデータベースのコードとの互換性をまとめたものです:

	利用可能コード	32-bit 4D	64-bit 4D
32-bit 4D Server	インタープリタ	OK	OK(*)
	32-bit コンパイル済みのみ	OK	-
	32-bit と 64-bit コンパイル済み	OK	OK(*)
64-bit 4D Server	インタープリタ	OK	OK(*)
	64-bit コンパイル済みのみ	-	OK(*)
	64-bit と 32-bit コンパイル済み	OK	OK(*)
Local database	Interpreted	OK	OK
	32-bit コンパイル済みのみ	OK	-
	64-bit コンパイル済みのみ	-	OK
	32-bit と 64-bit コンパイル済み	OK	OK

(*) 4D Server の32-bit版(Win・OS Xともに)とWindows用64-bit版4D Serverにおいては、サーバー側において**ServerNet** ネットワークレイヤーが有効化されていることを確認する必要があります。64-bit版 4Dにおいては旧式ネットワークレイヤーは利用不可だからです。より詳細な情報については、[新しい ServerNet ネットワークレイヤー\(互換性\)](#)の章を参照して下さい。

マルチターゲットコンパイル

4D アプリケーションは32-bit用と64-bit用、両方にコンパイルする事もできます。これをするためには、データベース設定の"コンパイル"ページにある、**64-bitプロセッサ用にもコンパイルするオプション**を使用する必要があります:



このオプションがチェックされていない場合(デフォルト)、コンパイルすると4D Developerのカレントのアーキテクチャー(32-bitまたは64-bit)用のみコードが一つだけコンパイルされます。このオプションがチェックされている場合、コンパイラは .4DC and .4DBファイル内に64-bit版は32-bit版のコード両方を含めます。そのため、これらのファイルは32-bit版・64-bit版両方の4Dアプリケーションで実行する事ができるようになります。

更新された機能

多くの4D機能とダイアログが、64-bitアーキテクチャーをサポートするために更新、あるいは書き換えられました。ほとんどの変化は気づかれないように行われており、32-bit版のリリースと全く同じように動作します。しかしながら、一部のエディターにおいては変更が行われ、32-bit版とは違っています。これらは64-bit版4D Developer Editionにて提供されています。

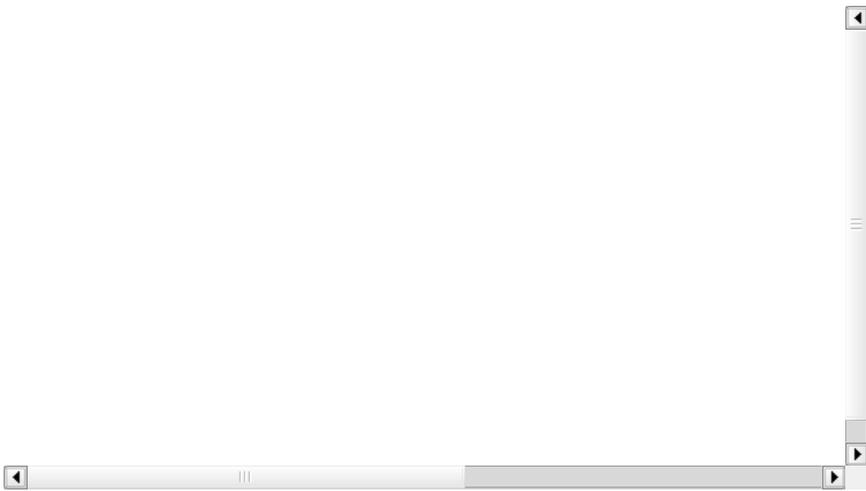
機能	対象となる4Dのバージョン	補足
クイックレポートエディター	OS X & Win	完全に書き換えられています。カレントのプレビューでは、埋め込みエリアとクロステーブルレポートはご利用いただけません。プレビューについては 新しいクイックレポートエディター(プレビュー版) の章で説明があります。
ラベルエディター	OS X & Win	完全に書き換えられています。プレビューについては 新しいラベルウィザード(プレビュー版) の章で説明があります。
フォームエディタープロパティリスト	OS X & Win	新規デザイン

OS Xでのアニメーションフォームオブジェクト

OS Xで実行される64-bit版の4DアプリケーションはOSネイティブのアニメーションの恩恵により、4Dフォームのユーザーエクスペリエンスを向上させる事ができます。具体的には以下のような点で向上しています：

- フィールド、入力可能変数、ラジオボタン、チェックボックスはフォーカスを受けるとアニメーションを表示します。
- ラジオボタンとチェックボックスはマウストラッキング時にアニメーションをトリガーします。
- スクロールバーには特殊なアニメーション効果があります(ただしYosemite版のみ)
- リストフォームでTABを押すと、カラム間をスムーズに移動することができます。

以下の動画はこれらのアニメーションの概要をまとめたものです：



注: Appleはアプリケーション内でどのようにアニメーションを使用したらいいかという[ガイドライン](#)を発行しています。

無効化された機能

最初の64-bit版4D Developer Editionでは、一部の機能は無効化されています:

機能/テクノロジー	対象となる4Dのバージョン	補足
シリアルポート通信	OS X	無効化されているコマンドは、 GET SERIAL PORT MAPPING 、 RECEIVE BUFFER 、 RECEIVE PACKET 、 RECEIVE RECORD 、 RECEIVE VARIABLE 、 SEND PACKET 、 SEND RECORD 、 SEND VARIABLE 、 SET CHANNEL 、 SET TIMEOUT 、それに加え、シリアルポートのコンテキストにおいてのみ USE CHARACTER SET も無効化されています。
読み込み/書き出しダイアログボックス	OS X	無効化されています。それに加え、 IMPORT DATA と EXPORT DATA も無効化されています。
クイックレポートの埋め込みエリア	OS X & Win	無効化
クイックレポートのクロステーブル	OS X & Win	無効化
Webエリア内の統合Web Kit	OS X & Win	無効化
印刷	Win	無効化

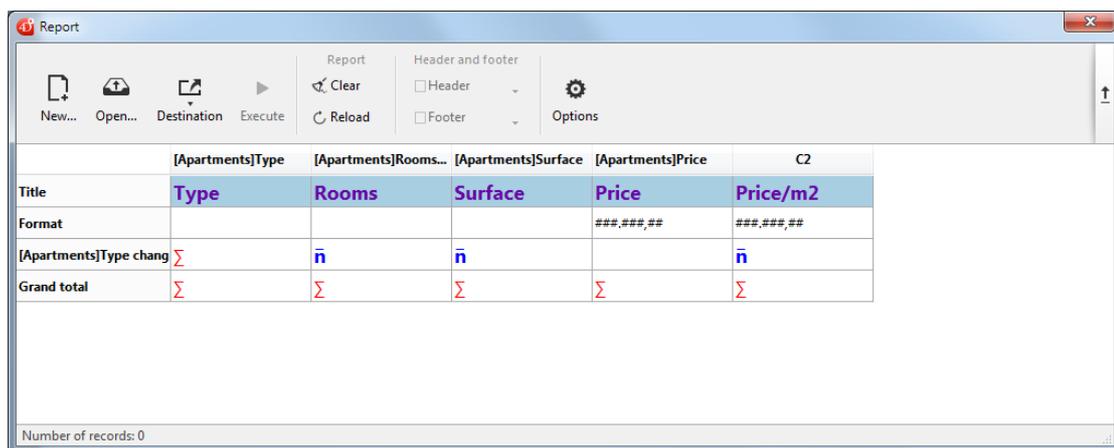
サポートされない機能

以下の機能またはテクノロジーは、64-bit版4D Developer Editionではサポートされません:

機能/テクノロジー	対象となる4Dのバージョン	コメント
XSLT と Xalan	OS X & Win	<code>_o_XSLT APPLY TRANSFORMATION</code> 、 <code>_o_XSLT SET PARAMETER</code> 、そして <code>_o_XSLT GET ERROR</code> は何もしません。代わりに PROCESS 4D TAGS コマンドを使用するか、PHP <i>libxslt</i> モジュールを使用して下さい。
PICT フォーマット	OS X & Win	'サポートされていない画像フォーマットです'ピクチャ+画像の拡張子が代わりに表示されます。PICTフォーマットは4D全体において廃止予定となっています。 AP Is Picture Deprecated も参照して下さい。
cicn アイコン	OS X & Win	GET ICON RESOURCE はサポートされていません。エラーを返します。
データベース .RSR ファイル	OS X & Win	データベース .RSR ファイルは自動的に開かれませんが、 Open resource file を使用する必要があります。
書き込み可能リソースファイル	OS X & Win	<code>_o_Create resource file</code> はサポートされていません。リソースファイルは読み込みのみモードでしか開く事ができません。
<code>_o_Font number</code>	OS X & Win	このコマンドはサポートされていません。これはエラーを返します。
旧式ネットワークワークレイヤ	OS X & Win	<i>ServerNet</i> のみがサポートされています。
ASCII 互換モード	OS X & Win	Unicode モードのみがサポートされています。
4D Write と 4D View プラグイン	Win	旧式プラグインはWindows用4Dの64-bit版では互換性がありません。代わりに4D Write Pro と4D View Pro(開発中)を使用して下さい。
OLE ツール	Win	サポートされていません

新しいクイックレポートエディター(プレビュー版)

4D v15 R2 の64-bit版には新しく作成された4D クイックレポートエディターが含まれます。インターフェースを見て、少し時間をかけてこの新しいエディターの現在の機能を体験してみましょう。現代的なアーキテクチャーに基づき、このエディターは将来の4Dのバージョンにおいてカレントの古いエディターを全て置換します。直感的なribbonベースのインターフェースを使う事により、洗練された新しいレポートをデザイン・実行する事ができる一報で、以前の4Dのリリースにおいて作成されたものを取り扱う事もできます:



The screenshot shows the 'Report' window with a ribbon menu containing 'New...', 'Open...', 'Destination', 'Execute', 'Clear', 'Reload', 'Header and footer' (with 'Header' and 'Footer' checkboxes), and 'Options'. Below the ribbon is a table with the following data:

	[Apartments]Type	[Apartments]Rooms...	[Apartments]Surface	[Apartments]Price	C2
Title	Type	Rooms	Surface	Price	Price/m2
Format				###,###,##	###,###,##
[Apartments]Type chang	Σ	n̄	n̄		n̄
Grand total	Σ	Σ	Σ	Σ	Σ

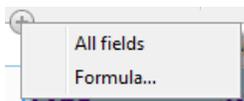
At the bottom left, it says 'Number of records: 0'.

新しいクイックレポートエディターの主な特徴は以下の通りです:

- 互換性:
 - 以前のリリースで作成されたレポートファイルとも互換性があります。フォーマットを変える事無く、古いレポートを開いたり、編集したり、保存したりする事ができます。
 - 既存のレポートの機能を全てサポートします。これにはランゲージコマンドも含まれます(ただしこのプレビューにおいて一時的に無効化されている機能を除きます。詳細は[無効化された機能](#)を参照して下さい)。
- 整頓されたインターフェース:
 - メニューバーの排除: 全ての機能はribbonベースのインターフェースを通して、またはポップアップメニューを通して使用する事ができます。
 - "ウィザードモード"の排除: 標準のインターフェースを使用し、自然なステップを通してレポートをデザイン・編集していきます。4Dコード生成ページはまだ提供されていません。

主な機能

- コンテキストメニューを使用してカラム(あるいはフォーミュラカラム)または全てのフィールドを追加する事ができます:



- 行全体を定義する事ができます。
- コンテキストウィンドウを通して、セル/行/列のグラフィック属性を定義する事ができます:



一時的に無効化されている機能

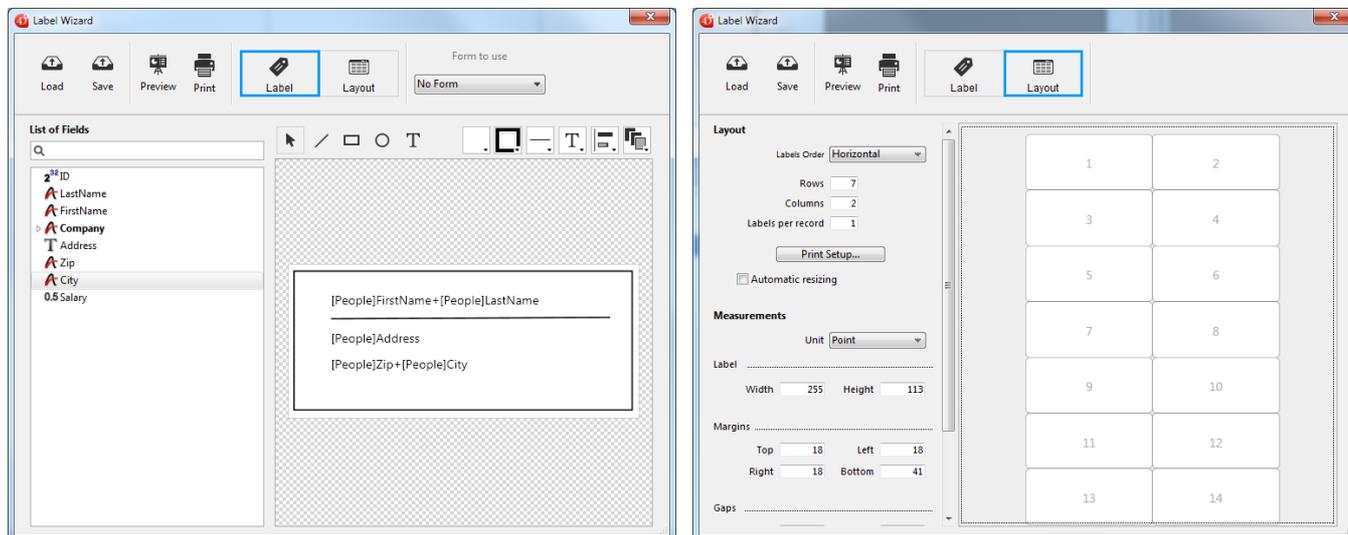
この4D クイックレポートプレビューにおいては、いくつかの機能はご利用いただけません。これらは今後のリリースに置き

て順次追加されて行く予定です:

- テンプレート
- クロステーブルレポート
- プレビュー
- レポートのフォームへの埋め込み(以前はプラグインエリアを使用)

新しいラベルウィザード(プレビュー版)

64-bit版の4D v15 R2では新しく書き直された4D ラベルウィザードの製作中のプレビュー版が含まれています。是非時間を取ってこの新しいウィザードのインターフェースとカレントの機能をお確かめ下さい。以前のものに近いという事がお分かりいただけるかと思えます。これは将来の全てのバージョンの4Dにおいて現在の古いラベルエディターを置き換える予定です。



新しいラベルウィザードの主な特徴は以下の通りです:

- 互換性:
 - 以前のリリースで作成されたラベルファイルと互換性があります。フォーマットを変える事無く、以前のラベルを読み込み、編集、そして保存する事ができます。
 - 旧式のウィザードで利用可能だった全ての機能をサポートしています。
- 新しいコンテキストインターフェース:
 - ラベルページのグラフィック機能にアクセスするための、Ribbonベースのインターフェースとコンテキストメニュー。
 - "使用するフォーム"ポップアップメニューには使用可能なフォームのみが表示されます(使用可能とは、フォームがカレントテーブルに属していて、単一ページを含み、固定サイズウィンドウで表示されていると言う事が条件になります)。使用可能なフォームがデータベース内に無いときには、このメニューは表示されません。
 - プロジェクトにJSONファイルを追加する事によって使用可能なフォームとメソッドの一覧を定義する事ができます(以下を参照の事)。

注: 無効化された機能 の章に記載があるように、Windows用のこのプレビュー版では印刷はご利用いただけません。

使用可能なフォームとメソッドを定義する

新しいラベルウィザードでは、ダイアログで選択可能なフォームとメソッドをデータベースレベルで制限するという機能が新しく追加されました。以前のバージョンでは、デフォルトで、全ての利用可能なオブジェクトが表示されていました。

ラベルデザインにおいて選択可能なフォームまたはメソッドを定義するためには以下の手順に従って下さい:

1. **label.json** という名前のJSONファイルを作成し、データベースフォルダー内の**Resources** フォルダーにおきます。
2. このファイル内に、ラベルウィザードのメニュー内にて選択可能にしたいフォームまたはメソッド名を追加して行きます。

label.json ファイルの中身は、以下のようにしてください:

```
[ { "tableId":2,"forms":[],"methods":["myMethod1","myMethod2"]}, { "tableId":1,"forms":["Sample Label 1","Sample Label 2"],"methods":[] } ]
```